

報部

脱原発 官邸前デモに過剰警備？

「再稼働」に抗議し、「脱原発」の声を届けようという金曜日恒例の官邸前デモ。自然発生的な個々人の集まりに、警視庁は「安全確保」として20日も国会周辺で厳重な警備を敷いた。参加者は「民意の表明がしにくい」「過剰規制によるデモつぶしでは」と疑問視している。デモと警備のあり方を考えた。(上田千秋、小坂井文彦)



国会周辺で官邸前デモの警備をする警察官=20日、東京・永田町で

「車道開放して」

「警察車両を駐車するスペースがあるんだから、そこを開放してくればいいんですよ」
二十日午後六時前、友人とともに国会近くの歩道に陣取った埼玉原藤市の仲内節子さん(66)はため息をついた。

「警察車両を駐車するスペースがあるんだから、この日も、大勢の人が官邸前や国会周辺の歩道を埋め尽くした。時間がたつにつれて人は増えていって歩道の四分の一ほどの幅を一般歩行者用に確保しているため、スパー

柵と人に挟まれ「危険増した」

「こんなに嚴重にしても意味がないと思う。わざわざデモをつぶす理由にしようとしているんじゃないか」といぶかった。

「抗議エリア」を設けた

「こんなにも嚴重にしても意味がないと思う。わざわざデモをつぶす理由にしようとしているんじゃないか」といぶかった。

「抗議エリア」を設けた



首相官邸近くで声を上げる渡辺一枝さん(左)と仲内節子さん

「仲内さんたちが訴えたいのは、「警備が過剰すぎて逆に危険が増しているのではないか」ということだ。政府が大飯原発(福井県おおい町)の再稼働を決めて以降、参加者が急増したため、警視庁は警備体制を強化した

「仲内さんたちが訴えたいのは、「警備が過剰すぎて逆に危険が増しているのではないか」ということだ。政府が大飯原発(福井県おおい町)の再稼働を決めて以降、参加者が急増したため、警視庁は警備体制を強化した

「指示に従って安全を確保してください」と繰り返して、「警察官がデモの主権者のようすく違和感があった」(仲内さん)。

午後六時にデモが始まると、前に進むと人たちが後方から少しづつ押し寄せてきた。後ろにいる人は、前が行き止まりになっていることには分らない。鉄柵と、押し寄せる人との間に挟まれ身の危険を感じ、鉄柵の向こうに避難しようとする、警察官から「ここに行くんですか?」「こっちはだめです」と強い口調で止められた。先に避難していた友人に手を引っ張ってもらって何とか抜け出すことができたが、仲内さんは「暴徒と思ったのか、市民に対する態度ではなく犯罪者のような言われ方をされた。今思い出し

官邸前デモは三月末から始まった。ネットやツイッターで知った個人々が自主的に集まり、今や万単位に膨れあがった。官邸前での巨大デモは六〇年安保闘争以来だ。

仲内さんは「今までデモに縁がなかった人たちが来ていて、全く様相が違つ。それなのに嚴重警備に怖くなって二度と来なくなつてしまつんじゃないか」とこつ訴えた。「これからも誰もが安心して参加できるよう、車道の一部を開放するなど対策を考えてほしい」

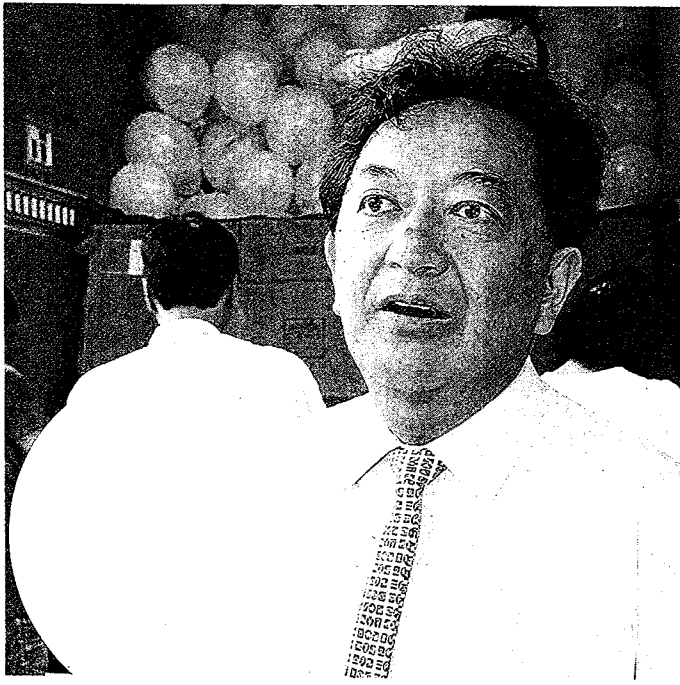
デモの抗議エリアは官邸前にはない。警視庁は「歩道が狭いので、人が集まると危ない」と安全上の理由と説明する。では、歩行者天国は無理でも、車道の一車線を歩道として二時間程度開放できないのか。

デモで車道を利用するには、東京都公安委員会の許可が必要だ。開始する七十二時間前までに、出発地点を管轄する警察署に申請書を出さなければならぬ。

だが、申請はやぶへびになる可能性が高い。デモを主催しているのは、市民団体などで組織する「首都圏反原発連合」。

民意膨らませよう

警察「デモではなく抗議活動」



白い風船を手に官邸前デモへの思いを語る新党日本の田中康夫代表。20日、東京・永田町で。1996年10月にブリュッセルで行われた事件解決を訴えるデモで、白い風船を手に最高裁に向け行進する参加者。A.P

連合をはじめ誰もデモなどのイベントに集まらな道を開かせざるを得ない。警視庁幹部申請をしていない。仮に「た人たち」と同じ扱いで状況をつくれればいい。も「危険を防ぐため、場官邸前や国会周辺で申請とらえているという。最も有効なのは、参加者がさらに増えることだ。今は、設定した『抗議の場合、公安委はデモ規制強化について警察がさらに増えることだ。今は、設定した『抗議の場所や日時を変更させは「主催者との相談のいう。欧米でのデモで、議エリア」に参加者が入り上」と発表したが、同連車道に人があふれるケりきれていてから開放の必要はない」と話す。警視庁の幹部は「政治合はHPで「事実と異なる。許可を取っていい。前向きに考えましよう。中枢で集団の力を使はる。残念ながらこちらからすることもあるが、人が集まりすぎて危険だから警う」と唱えるのは、新党にもあり得る。申請があていない。今後も規制緩和がその場で黙認するこ日本代表の田中康夫衆院れば、場所を変えてもら和などを警察と交渉してともある」と語る。警察が最も恐れているスクを負った。この中にうことになる」と言う。いまます」としている。警察が最も恐れているスクを負った。この中に申請がないため、警視庁「デモ」とは何か」のは、二〇〇一年に兵庫いないと危ないですよ、は官邸前デモを「抗議行の著書がある高千穂大学 泉明石市の歩道橋で、花と規制する以上、負傷者動」と呼び、容認しているの五野井郁夫准教授(国火大会の見物客十一人がが出た場合、責任問題でる。参加者を「花火大会 際政治学」は「警察が車死亡したような事故が起しよ」

田中康夫氏が白風船運動 楽しんで長続き願う

田中氏は十三日、デモ終了後に赤いコーン標識を片付ける警察官の「原発反対」というつづぎやきを聞いたという。「現在のデモは、官対民のような二項対立ではない。組織に属している人も、人間の体温に溶かしていく運動なのです」

今月から参加者に「白い風船」を配る運動を続けている。参考にしたのはベルギーで一九九六年十月にあった「純白の行進」。少女連続誘拐事件の司法当局の対応に抗議し、約二十万人が白い風船や白い花を持って静かに街を歩いたデモだ。

「暴力的でなく楽しんでながらするのがデモ。風船が、官邸前のデモがこれからも続くための触媒になるといいな、と思っ

デモスクエーム

十三日ははさんで前後のデモに参加した。東京新聞は霞が関付近にあり、歩いて行ける。前は官邸前で熱気を体感したが、以後は規制強化の誘導で国会正門前に回った。分散で「国会包囲」となるものの一休感も薄れる。官邸前が歩道と車道で危険というなら、国会正門内の広場を一時開放したらいいか。(田)